

環境報告書 2016

2016年10月発行 日本精模株式会社

1.	ごあいさつ		3
2.	環境方針		3
3.	NSの事業活動と環境負荷 ①GHG排出量推移 ②廃棄物排出量・リサイクル率推移 ③エネルギー削減事例		4
4.	環境マネジメント推進体制		5
	①NSの環境マネジメント組織 ②ISO14001認証取得状況 ③法規制順守、緊急事態対応、外部・内部コミュニケーシ ④内部監査と環境マネジメントシステムの継続的改善 ⑤グリーン調達 ⑥製品含有化学物質の管理	ノヨン	
5.			8
	①目標実績対比		

環境報告書2016について

②環境配慮設計·開発事例 ③生物多様性保全の取組み

ー編集方針ー

本報告書は、日本精機の環境保全活動全般をステークホルダーの方々に幅広く知ってもらい、コミュニケーションを図ることを目的に、2010年度より継続して発行しています。

日本精機の環境への取組みについて、多くの 方々のご理解を得られれば幸いです。

報告書内では、日本精機を簡略的に「NS」と表記することがありますので、ご承知おきください。

一報告対象範囲一

日本精機株式会社 単体です。 但し、一部関連会社の活動に関する記述を 含んでおります。

ページ

一報告対象期間一

2015年4月1日~2016年3月31日 (上記期間の活動結果を受け、2016年4月 以降の進捗情報も一部含めております。)

-報告書問い合わせ先-

日本精機株式会社 TQM推進室 〒940-0006 新潟県長岡市東高見2-2-8

URL http://www.nippon-seiki.co.jp

E-Mail nstqm@nippon-seiki.co.jp

1. ごあいさつ

2015年度の当社グループを取り巻く経済環境、日本国内では企業収益が改善に向かう一方、米国・欧州では原油・資源安の影響で今後の景気回復に陰りが見え始め、世界経済全体としては予断を許さない状況となりました。このような状況において、当社グループは「もの造り総合力」の強化と同時に、営業・設計・経営管理などあらゆる面でのグローバル化を目指し、変化に柔軟かつ迅速に対応できるよう「経営のグローバル化」を推進してまいりました。

環境面においては、世界各国で大洪水や猛暑などの異常気象が発生し、日本国内でも、集中豪雨による河川の氾濫や猛暑日の更新などはあたりまえになりつつあるような状況です。これらの原因の一つに温室効果ガスの増加による地球温暖化の影響があります。当社としましては、地球環境問題を経営上の重要課題と位置づけ、環境と調和する安全で持続可能な社会の実現を目指し、環境方針、環境目的・目標を設定し、「志」、「社会」、「人」を大切にした事業活動を展開しております。

日本精機株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 高田 博俊

2. 環境方針

当社は、ISO14001環境マネジメントシステム規格に準拠し、事業活動と密着させた環境保全活動を展開させ、 その活動の有効性を高めることを目的に、以下の環境方針を制定しております。

日本精機株式会社 環境基本方針

1. 環境宣言

私たちは、地球環境問題を経営上の重要課題として位置づけ、「志」、「社会」、「お客様」、「人」を大切にした事業活動を通じ、環境と調和する安全で持続可能な社会の実現をめざし、価値の高い製品、サービスを提供し続けます。

2. 環境方針

私たちは、車載、民生、ディスプレイ製品の開発・設計・製造・販売の事業展開に当たり、地球温暖化防止、資源の有効利用、生物多様性の保全、環境汚染の予防など環境影響の緩和や環境保全活動を展開し、継続的改善を推進していきます。

- (1)私たちは、事業活動、製品、サービス、施設、設備の各要素に係る環境法規や地域、お客様からの規制・基準を特定し、その順守手段を管理手順や基準類に反映させ、規制・基準値の適正監視を行ない順守するとともに、環境影響の緩和に努めます。 ます。
- (2)社会環境やお客様要求の分析等を基に、環境目的及び目標を設定し、これを達成するための環境マネジメントプログラムを策定し、実行し、結果の評価とシステムの見直しによるPDCA展開をしていきます。

特に、下記項目を事業活動と密接に展開させ、継続的改善を推進していきます。

- ・エネルギー、資源消費の削減
- ・廃棄物排出の削減及びリサイクルの推進
- ・使用、及び製品に含有する化学物質の適正管理
- (3)製品の開発・設計から生産活動の各段階において、廃棄物の低減と環境保全に配慮した取り組みを展開し、製品ライフサイクル全体を通じ、環境負荷の少ない製品の提供に努めます。
- (4)私たちは、環境方針に基づく活動を遂行するため、環境マネジメントシステムの構築・維持と、すべて の従業員への環境教育、社内啓蒙活動を実施します。

3. NSの事業活動と環境負荷

NSは車載、民生、ディスプレイ製品の開発・設計・製造・販売を行っています。これらの事業活動に伴う環境負荷の低減に努めています。2015年度の環境負荷は以下のとおりです。

	INPUT		
分類	項目	使用量	単位
エネルギー	電力	32,362	MWh
	重油	187	kl
	都市ガス	419	Ŧm³
	LPG	37	Ŧm³
水	上水道	217	Ŧm³
	地下水	373	千㎡



	OUTPUT			
۱	分類	項目	排出量	単位
)	温室効果ガス	GHG ^{※1} 排出量	13,945	t-CO ₂
	下水道	排出量	217	千㎡
	他の水域	排出量	373	Ťm
	廃棄物	排出量	843	t
		(リサイクル率)	99.7	%

※1 GHG: Green House Gas の略で、温室効果ガス

地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室 効果をもたらす大気中のCO。などの気体の総称

①GHG排出量推移

2015年度のGHG排出量は、2014年度比 295t-CO₂ (2%)増の13,945t-CO2でした。t-CO₂原単位は、12.1 t-CO₂/億円と7%の削減となりました。原単位の良化は、電力使用量の多いコンプレッサなどの省エネ施策の効果と売上高増加による影響もあります。

NSのGHG排出量は、電力由来が88%を占め、次いで都市ガス由来が7%です。

②廃棄物排出量・リサイクル率推移

2015年度の廃棄物排出量は、2014年度比 51t(5.7%) 減の843tでした。売上高原単位では、15.1%の削減と なりました。

リサイクル率は、99.7%と2014年度から横ばい状況でした。非リサイクル品は僅かとなりましたが、更なるリサイクル率向上を推進します。NSが定めたゼロエミッション要件^{*2}は継続しています。

~ CO2排出量推移 ~



~ 廃棄物排出量リサイクル率推移 ~



※2 ゼロエミッションとは、リサイクル率99%以上。

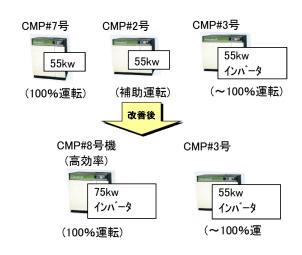
但し、自治体による焼却処理や法で 規制を受けるものはリサイクル率算出の集計対象外とする。

③エネルギー削減事例

本社工場コンプレッサー入替・効率化運転に よる消費電力削減

本社工場のコンプレッサ群の使用量の分析等を行い、高効率定速コンプレッサ1台を導入し、計画的にコンプレッサ2台を入れ替えたことにより消費電力削減を図ることができました。

この効果として、CO₂を 225t/年 の削減予測です。

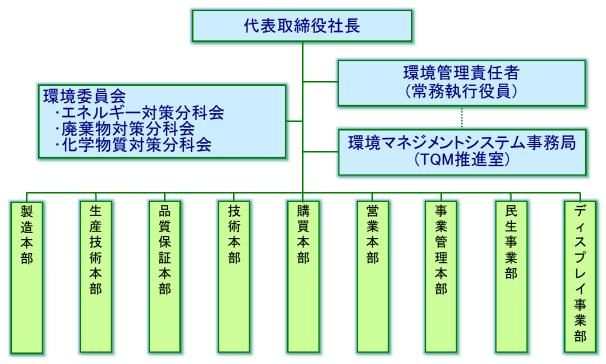


665,004 kWh/年 の削減

4. 環境マネジメント推進体制

①NSの環境マネジメント組織

環境マネジメントシステムの組織は、社長をトップに、7本部、2事業部が参画し、全社的展開で推進しています。エネルギー削減、廃棄物排出量削減、化学物質の抑制などの専門的課題を環境委員会が組織横断的な活動で展開しています。



②ISO14001認証取得状況

NSでは、国内外の製造系の関連会社でISO14001環境マネジメントシステムの認証取得を完了し、維持継続しています。

地域	所在地	会社名	認証取得年月
	新 潟 県	日本精機株式会社	1999年8月
日本	新 潟 県	エヌエスアドバンテック株式会社	2002年11月
	新 潟 県	エヌエスエレクトロニクス株式会社	2006年10月
	広 島 県	NSウエスト株式会社	2001年11月
			-
	アメリカ	New Sabina Industries, Inc.	2001年10月
	メキシコー	Nippon Seiki De Mexico S.A. De C.V.	2014年7月
米 州	メキシコー	Nissei Advantech Mexico S.A. De C.V.	2013年2月
	ブ ラ ジ ル	Nippon Seiki Do Brasil Ltda.	2004年11月
	ブ ラ ジ ルー	NS Sao Paulo Componentes Automotivos Ltda.	2008年12月
			,
欧 州	イギリス	UK-NSI Co., Ltd.	1999年4月
	中国	上海日精儀器有限公司	2006年8月
中国	中国	日精儀器武漢有限公司	2015年1月
中国	台湾	台湾日精儀器股份有限公司	2011年3月
台湾			₹
п <i>1</i> -3		東莞日精電子有限公司	2004年10月
	中国	──日精工程塑料(南通)有限公司	2007年6月
	ターイー	Thai Nippon Seiki Co., Ltd.	2003年10月
	9 1	Nippon Seiki Consumer Products(Thailand)Co., Ltd.	2010年2月
アセアン	9 1	Thai Matto NS Co., Ltd.	2010年2月
インド	インドネシアー	PT.Indonesia Nippon Seiki	2010年9月
1 7 1	ベトナム	Vietnam Nippon Seiki Co., Ltd.	2011年1月
	インドー	NS Instruments India Private Ltd.	2015年11月

③法規制順守、緊急事態対応、外部・内部コミュニケーション

法規制順守

環境に係わる法規制として23件の法規を特定し、その順守評価を2回/年の頻度で定期的に行っております。 評価項目は自社基準を含め438項目あり、全項目で順守できていることを確認しました。

緊急事態への対応

各サイトごとに毎年10月に防災避難訓練を実施しています。2015年度は、地震とその後の火災を想定した防災避難訓練を行いました。

小型ポンプによる放水訓練や、模擬消火器での消火訓練、消防署への通報訓練、防災無線交信訓練、被災者救護訓練、等を行いました。

~高見事業所 防災避難訓練~



地域社会とのコミュニケーション

NSでは、積極的に地域社会の活動に参加し、コミュニケーションを図っています。毎年、8月に開催される長岡まつりでは、前夜祭の民踊流しに151名で参加しました。翌日には、花火大会会場のクリーン作戦に継続して参加しています。また6月に、本社工場及び高見工場周辺において、新入社員を中心に総勢50名で周りの歩道の清掃を実施しました。

~民踊流し、クリーン作戦~



利害関係者からの環境上の苦情・要請・要望

2015年度は、利害関係者からの苦情・要請・要望はありませんでした。

NSグループのコミュニケーション

NSでは、2012年度より国内外の製造系の関連会社が参加する『グローバル環境会議』を毎年1回の頻度で開催しています。2015年度で4回目の開催となり、今後も拡大展開してまいります。

NSグループ全体の環境負荷の把握及び、エネルギー削減事例の水平展開などで、グローバルでの環境 負荷低減に努めています。

~グローバル環境会議~



4)内部監査と環境マネジメントシステムの継続的改善

NSでは、年1回、各部署から資格任命された内部監査員により環境マネジメントシステムの内部監査を実施していまます。

内部監査では、2012年より改善提言(SFI)や、推奨 事項を集計分析しており、その件数は増加傾向にあ ります。特に改善提言は、不適合ではないが、予知・ 予防の観点から改善へのきっかけとなるものを多く 取り上げるようにしています。

これらの内部監査の結果は、外部審査、顧客監査等での課題と合わせ、NSの課題を明確にし、マネジメントレビュー(環境システム見直し会議)にて社長へ報告、提案をし、マネジメントシステムの継続的改善に繋げるようにしています。

~内部監査(環境) 指摘件数推移~



5グリーン調達

グリーン調達ガイドライン

NSでは、地球環境問題を経営上の重要課題として 位置づけ、環境と調和する持続可能な社会の実現を めざした活動を展開しております。

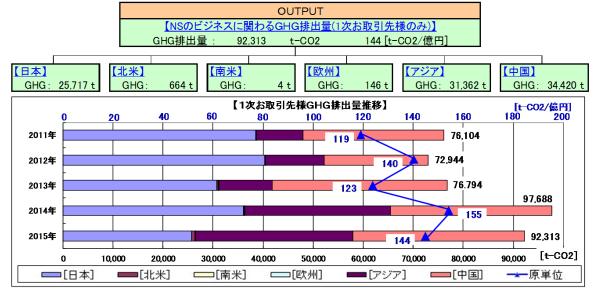
NSがお客様に提供する製品は、多くのお取引先様から納入いただく部品、材料、副資材等で構成されています。製品やサービスがお客様の要求や期待に適合し、持続可能な社会の実現に貢献するには、当社だけの活動だけでなく、お取引先様を含めたサプライチェーンに渡った活動と管理が必要不可欠となります。お取引様へは、下記内容をお願いしています。

- 1)環境マネジメントシステム(EMS)の構築
- 2)化学物質管理の徹底
- 3)製品含有化学物質管理システム(CMS)の構築
- 4)GHG排出量の把握/削減の取り組み
- 5)資源循環の推進
- 6)生物多様性保全の取組み

~NSグリーン調達ガイドライン~



また、2011年度より、NSのビジネス活動に関わる1次お取引先様のGHG^{※1}排出量の把握を開始しております。2015年度は、前年度比6%低減となりました。地域別では、中国エリアが37%、アジアエリアが34%、日本エリアが28%と上位3エリアで全体の99%を占めています。お取引先様の環境マネジメントパフォーマンス評価基準を見直し、未把握領域、排出量の削減のためのPlan・Do・Check・Actionを廻す展開を加速させてまいります。



⑥製品含有化学物質の管理

REACH規則、RoHS指令等に代表される製品含有 化学物質に関する法令は年々厳しくなってきており ます。また、化学物質に関するお客様の要望も同様 です。これらに対応すべく、2013年に製品含有化学 物質管理システムをバージョンアップし、化学物質 報収集の相互の効率アップを図りました。

製品含有化学物質のデータを収集するには、サプライチェーンを遡り、個々の部品や材料に含まれる化学物質データを入手する必要があります。サプライチェーンのどれか1つが不足しても完成できません。システム導入当初の課題を改善しながら、現在では効果的且つ順調に運用を行っております。

これらの化学物質データは、各種の化学物質法規制やお客様の要望を満たしていることのエビデンスとなります。更には、製品開発において環境負荷の少ない部材の選定などに利用しています。

~製品含有化学物質管理システム~ ログイン画面



5. 環境目的・目標と実績

1目標実績対比

2015年度は、新たな中期目標:第6次(2014年度~2016年度)全社目的・目標の2年目でした。12/17テーマで目標を達成しました。エネルギーに関する第6次環境目的・目標は、基準年度を2013年度とし、2015年度は4%の削減を目標と活動してまいりましたが、電力使用量削減実績は3.4%で、基準年度よりは削減しているものの目標達成には至りませんでした。

取組みテーマ	項目	2015年度目標	2015年度実績	評価	2013年度 イ2014年度 ペン2015年度 ペン
地球温暖化防止に取り組む	電力	4.0%削減(生産数原単位) (2013年度比)	3.4%削減	Δ	***
		4.0%削減(電力量使用量) (2013年度比)	17.1%削減	0	***
	重油	4.0%削減(生産数原単位) (2013年度比)	21.3%削減	0	•
		4.0%削減(重油使用量) (2013年度比)	14.2%削減	0	*
	都市ガス	4.0%削減(生産数原単位) (2013年度比)	0.8%削減	Δ	***
	LPG	4.0%削減(LPG使用量) (2013年度比)	7.3%削減	0	***
水資源の節約	上水道	4.0%削減(生産数原単位) (2013年度比)	4.7%削減	0	***
克森特州山 見物学 玉利	排出量	4.0%削減(生産数原単位) (2013年度比)	11.0%削減	0	•
廃棄物排出量削減、再利 用、リサイクル化に取り 組む		4.0%削減(総排出量) (2013年度比)	2.6%増加	×	***
粗化	リサイクル率	99.9%以上	99.7%	Δ	•
環境配慮型製品の開発推進	製品 アセスメント	各製品群ごとの製品環境指標 の向上	全12テーマ展開し、低消費エネルキ・・、軽量化で10テーマ。	0	
化学物質の適正管理	製品含有化学 物質管理	製品含有化学物質DBの データ登録拡充	新規開発製品のデータ 登録100%	0] /
	海外調達部材 管理	海外調達部材のDB登録と適正 管理	海外調達部材DB登録100%	0	
	取扱い管理	PRTR法届出対象物質 取扱い量削減	PRTR法届出物質数は同じだが、取扱量は増加。	Δ	
グリーン調達の推進		改訂したグリーン調達ガイドライン (第5版)による運用	新基準での運用定着	0	1/
グローバルでの環境 パフォーマンス向上	CO₂排出量	国内外関連会社の環境データ の把握	製造系関連会社への共通の 環境データ把握継続	0	1/
生物多様性保全の取組み	環境保全	環境に配慮したFSC森林認証 用紙の使用継続	会社案内(パンフレット) に「FSC」 認証紙の使用	0	/

○:目標達成 Δ:前年度よりも削減/向上するも目標未達 ×:前年度より悪化し、目標未達

②環境配慮設計・開発事例

(1)メータの軽量化設計

本田技研工業株式会社様の新型「CIVIC」(北米生産)には、当社製スピードメータが搭載されています。 本メータにおいては、開発初期の仕様に対して構成する樹脂部品の薄肉化、構造の見直し等々の軽量 化の配慮を設計に反映し、最終的に全体質量の 約7%の軽量化を実現しています。

(2)優れた操作性で、大幅なセットアップタイム の短縮に貢献

株式会社 安川電機様のインバータ製品には、当社 キーパッドが使用されています。

ユーザーの視点に立った「使いやすさ」を考え、指の 大きなユーザーでも隣り合うキーを誤操作しにくい キー形状をデザインし、手袋をしたユーザーでもキー の操作感を得られるようクリック感を演出するスイッチ 構造を安川電機様と共に独自工夫し、高い操作性を 実現しています。

ソフトウェアでは、初めて操作するユーザーでも画面の設問に対話方式により答えるだけで、簡単に初期設定を完了できる機能を実現し、大幅なセットアップタイムの短縮・トラブルなどによる設備停止時間の短縮に貢献しています。

(3)低消費電力液晶ディスプレイの開発

省電力が求められる電池駆動型の電化製品などに も、当社製液晶ディスプレイが使用されています。

NS独自設計の省電力液晶ディスプレイに低消費電力LEDを採用したバックライトを一体化することで、見やすい表示はそのままに、前モデル比で消費電力を10%削減しました。

③生物多様性保全の取組み

NSでは、生物多様性保全の取組みとして、NPO法人「新潟県山野草をたずねる会」に参加し、春には植樹をする苗畑の除草をし、秋にはその苗約150本の植樹を行いました。

その他、FSC(Forest Stewardship Council)、森の 町内会による認証紙の採用を推進しています。

本田技研工業株式会社様向け 新型「CIVIC」(北米生産)メータ



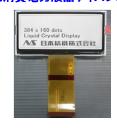
株式会社 安川電機様向け インバータ用キーパッド





独自工夫のキーデザイン

低消費電力液晶ディスプレイ





最後に

NSは持続可能な社会の実現、ライフサイクル全域に亘っての環境負荷低減を目指し、活動展開しています。 これらの活動のエリアを国内外のNSグループの関連会社に拡大していくとともに、当社ビジネスに関わるお取引先様 でのエネルギー消費の把握及び削減を推進してまいります。